



村小だより

平成31年4月12日発行

教育目標「自治三訣」を心に ～子どもも職員も～

校長 鈴木 正美

桜の開花に先駆けて、村上小学校の平成31年度第1学期が始まりました。新入生37名を含む、子どもたち249名(昨年度比-16名)と教職員43名でのスタートです。

昨年同様、始業式では、教育目標の「人のお世話にならぬよう 人のお世話をするよう そしてむくいを求めぬよう」(自治三訣)について、それぞれ次のような説明をしました。

○「人に迷惑をかけず、自分が成長するために、何事にも進んで取り組むこと」

○「人を優しく思いやる気持ちをもって、何事にも共に助け合いながら取り組むこと」

○「ご褒美がなくても、学級・学校・地域のために、学んだことを生かして取り組むこと」

全校で教育目標のような自分になることを目指して、それぞれの学年に応じた具体的な目標やめあてを立て、一人一人が努力してほしいという校長としての願いを伝えました。子どもたちも、真剣に聞いてくれました。

私たちも4月1日の初顔合わせで、全職員で「心のこもった、やさしい教育」をモットーに、次の三つのことを心に刻み、村小職員の心得としました。私たちも教育目標のような教職員組織(チーム村小)を目指します。

今年度も保護者、地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

1 「学校は子どものためにある」

子どもは地域の宝です。子どもがいるから村上小学校があります。いつも、どんなときも「村小の子ども」一人一人を大切にする学校、子どもに寄り添い、支え、鍛え、生きる力を育てる学校でなければなりません。

2 「学校の教育活動の中核は授業である」

目指す子どもに迫るために、「子どもたちが自ら学び、共に高め合い、力を付ける授業」を創造することが教員の使命です。そのために、自己の力量アップに努めなければなりません。授業をもたない職種の職員であろうとも、その務めは教育活動の中核を支えることに必ず繋がっています。

3 「真摯で、謙虚なわたしたちでありたい」

一言でいえば、「させてもらっている」意識をもつことです。学校教育は、子どもや保護者、地域のための仕事であるという意識で取り組むことが大切です。